

令和7年度自己評価計画書（中間評価）

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び2学期以降の取り組み（改善策など）
1 生徒の実態を理解した授業改善に取り組み、専門職にふさわしい実践力を身につけ、国家試験全員合格を継続する。	① 生徒に課題意識を持たせ思考する場面や、生徒同士で課題について話し合ったり、教え合ったりする活動場면을意図的に設定する。	「授業は興味深く学習意欲がわく」と評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	授業は興味深く学習意欲がわくと評価した生徒の割合 1年生 86.4% 2年生 92.2% 3年生 95.1% 専攻科 83.4% 全 校 89.2% 評価 A	全校の肯定評価は昨年度の最終評価より2.3%増加した。生徒が主体的に思考する場면을意図的に取り入れている。また、実社会や看護・福祉との関連を示し、学習の必要性を感じさせる授業を展開している。今後、1年生では、既習事項の定着を図り、生徒同士で課題について話し合い、教え合う活動を取り入れるなど、学習に対する興味・関心を高める工夫をする。専攻科では、生徒の知識の習得状況に応じて、論理的に思考し表現する機会を意図的に設け、学習意欲を高める。
	② ICT機器の活用により、授業への興味関心を引き出すとともに、生徒の主体的な思考を深める。	「ICTを活用することで理解が深まった」と自己評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	ICTを活用することで理解が深まったと自己評価した生徒の割合 1年生 87.1% 2年生 90.5% 3年生 100% 専攻科 98.7% 全 校 95.5% 評価 A	全校の肯定評価は昨年度の最終評価より9.1%増加した。多くの授業でクロームブックなどのICT機器を活用している。ICT機器を使用するねらいを意識して授業を展開している。今後、1年生では、ICT機器を有効に活用することによって、生徒がより主体的に思考を深めることができるような、発問や課題を設定し、達成感が得られるようにする。
	③ 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	〈高校生〉 偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1～2人 C 3～4人 D 5人以上 である。		〈高校生〉 2. 3年生は、8月31日に看護模試実施予定。 実施後、評価する。

		〈専攻科〉 偏差値 42 未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上である。	〈専攻科〉 専攻科 1 年生 偏差値 42 未満の生徒 2 名 評価 C 専攻科 2 年生 偏差値 42 未満の生徒 2 名 評価 C	〈専攻科〉 専攻科 1 年生は 7 月に行った看護師国家試験演習にて 2 名の生徒が全国偏差値 42 未満であった。また、専攻科 2 年生も 5 月に実施した国家試験演習にて同じく 2 名の生徒の偏差値が 42 未満（内 1 名：35）である。臨地実習での指導も含め、これまでの知識の振り返り、定着を意識した指導が重要と考える。今後、補習のみならず、個別指導やグループ学習を取り入れ、国家試験合格に向けて正確な知識の定着とともに全体の学力向上を図る。
④	生徒一人ひとりに応じた適切な目標を設定し、目標達成を積み重ねることで、国家試験合格に必要な知識・技術が定着するように指導する。	〈全ての学年〉 目標の級に合格しなかった生徒が A 0人 B 1～2人 C 3～4人 D 5人以上 である。 〈3 年生〉 介護福祉国家試験演習で得点率 65%に満たなかった生徒が A 0人 B 1～2人 C 3～4人 D 5人以上 である。	〈3 年生〉 7 月実施の国家試験演習で得点率 65%に満たない生徒 5 人 評価 D	〈全ての学年〉 検定実施後に評価する。 〈3 年生〉 得点率が 65%に満たない生徒が 5 名である。また、0 点科目のある生徒が 2 名。学級として苦手な科目の基礎内容の再確認を早期に行う。個に応じた学習方法の確認を行い、個別支援を実施する。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び2学期以降の取り組み（改善策など）
2. 生徒会活動・部活動、ボランティア活動などを活性化させ、心身の健康とレジリエンス涵養を図り、活気ある学校づくりを推進する。	① 文化祭の企画やスポーツフェスなどの行事に縦割り班を活用し、より大きな枠組みの中で他者と継続して協働する力を育成する。	行事をきっかけに、普段の学校生活で他学年と関わることが増えたと答えた人が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。		9月文化祭終了後と10月スポーツフェス終了後に生徒対象にアンケート実施予定。
	② 生徒保健委員会活動や縦割り班活動の活性化を図り、健康に関する情報発信や啓発活動を通して生徒が自身の健康管理に関心を持ち、健康観を高めていこうとする校風を形成していく。	歯科検診後に受診を勧奨し、未処置歯がある者の割合が A 20%未満 B 25%未満 C 30%未満 D 30%以上 である。 活動により、自身の健康を高めるために行動していくと答えた生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	高校1年生の回答結果 活動により、自身の健康を高めるために行動していくと回答した生徒の割合が 100% 評価 A	長期休暇後（夏、冬）に生徒が提出する『受診結果』を元に評価を行う。 1学期に高校1年生を対象に性教育講座を実施した。生徒の関心は高く、命を大切にすることや性感染症の予防についての知識を得て、自身の健康を高めるための意識付けをすることができた。また、生徒作成の保健だよりを配信したり、保健室からの情報発信の活発化を図ったりして、生徒の健康観を涵養していく活動ができた。2学期には歯科保健指導を計画している。
	③ 長期休暇後に実施する心と体のアンケートを基にスクールカウンセラーと連携した対応を取りながら、自らが問題を解決する	スクールカウンセラーと連携した対応後のアンケートにより「役立った」と回答した生徒割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上		「心と体のアンケート」（夏休み明け実施）結果を基に、スクールカウンセラーとの面談をした結果となるため、中間報告は10月上旬となる。

	力を育成する。	D 90%未満 である。		
④	生徒自身がルールやマナーの必要性を理解し、規範に基づいて主体的に判断し行動する力を身につける	「ルールやマナーが必要な理由を理解し、状況に応じた行動を考え実践することができた」と評価した生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。		9月末に生徒にアンケートを実施し、評価する。
⑤	「田鶴浜高校いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめのない学校作りを推進する。	生徒アンケートで「互いの人格を尊重し、相手の思いを考えて行動する意識」について、「大いに高まった」と「高まった」の回答が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。		9月末に生徒にアンケートを実施し、評価する。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び2学期以降の取り組み（改善策など）
3: 本校の特色ある教育活動や、地域の医療・福祉を支える人材の必要性等の広報に工夫を重ね、志願者の増加を図る。	① 体験入学、学校説明会等での説明内容と方法を工夫する。各種説明会への参加者増加に繋がる広報を強化する。	「体験入学、説明会に参加したことにより、看護・福祉に対する関心が高まった」と評価した参加者の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 である	学校説明会 100% 体験入学 100% 評価 A	学校説明会、体験入学の参加者に対してアンケートを実施した。参加者全員が看護・福祉に対する関心が高まったと回答した。本校の教育内容の特長や看護・福祉の魅力と将来性について動画を用いるなど分かりやすく説明した。学校説明会、体験入学の参加者は、以前から看護・福祉に関心があることがアンケート結果反映していると考えられる。早期から看護・福祉に対する興味・関心を喚起する体験的な活動を企画し、広報活動を一層強化する。
	② 本校の特色ある学校行事の取り組みや、衛生看護科・健康福祉科生徒の活躍を地域に向けて発信する。	高校を選択する際に本校のホームページが参考になったと答える割合が、 A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満	（学校説明会結果） 大変参考になる 46.8% 参考になる 36.1% 合計 82.9% （体験入学結果） 大変参考になる 35.7% 参考になる 54.3% 合計 90% 評価 A	学校説明会及び体験入学の参加者に対してアンケートを行った。結果は（A）70%以上の回答を得ることが出来た。今回は本校に関心のある生徒の回答であったため高い数値が得られたと思われる。その中でも「見たことがない、参考にならない」という回答が17%、10%あった。この数値を少しでも減らしていけるよう各科・課と連携し改善していきたい。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び2学期以降の取り組み（改善策など）
4: 教職員の働き方改革を推進する。（業務の効率化・最適化・協働化・見える化）	① 時間外勤務を減少させるため、ICT活用の定着を図りながら業務の効率化・協働化・見える化を進める。	具体の取組を積極的に進め、一月あたりの時間外勤務時間の平均が、 A 25時間未満 B 25時間以上 30時間未満 C 30時間以上 35時間未満 D 35時間以上	4～7月までの時間外勤務時間平均値は28時間22分であった。（昨年度は35時間30分） 評価 B	4月から7月の4ヶ月間、昨年度に比べ時間外勤務の平均値は減少している。60時間を超える教員が4、5月に各1人、80時間を超える教員はいなかった。 年度当初よりICTの積極的な活用などによる業務内容の効率化を推進しており、より一層時間外勤務の減少に取り組んでいきたい。